

ニッシン・グルメビーフ
株式会社 愛媛工場



生産者さん おじゃまして〜す

どの商品も同じ品質とおいしさで

「牛やわらかハラミカット」 ~ニッシン・グルメビーフ株式会社~



藤本さん
(生産部部长)

昭和34年に大阪市浪速区で肉屋として創業したニッシン・グルメビーフ(株)。元々、大阪に住んでいた藤本部長は、抜けきらない大阪弁で「多くのの人に牛肉を食べて欲しい」と熱く語っていました。

共同購入は、一つひとつの商品が、直接注文された組合員さんへ届きますので、どの商品も同じ品質とおいしさで提供することを心がけています。食材としては王様の分類である牛肉だからこそ、いつも「ガツカリされることのないよう」この思いで、製造しています。

共同購入は、一つひとつの商品が、直接注文された組合員さんへ届きますので、どの商品も同じ品質とおいしさで提供することを心がけています。食材としては王様の分類である牛肉だからこそ、いつも「ガツカリされることのないよう」この思いで、製造しています。

調味液をしみ込ませたお肉を肉の組織を壊さないよう急速凍結し、スライスします

もともとファミリーストラン向けに製造・出荷していたオーストラリア・ニュージールランド産の牛肉を加工した商品。5年ほど前、BSE(俗称「狂牛病」)の影響で国産牛肉が確保しにくくなったときに、全国の生協向けにご紹介しました。その後、どの世代にも食べやすいやわらかさと手頃な価格を特徴に、多くの組合員さんに利用される商品に。

筋切りしながら調味液をしみ込ませる加工方法のため、肉の中に細菌が入らないように生肉の表面をきれいに洗って

品質管理について
教えて



不純物を取り除き、さらさらの国産牛脂

(第2工場担当係長・矢野さん)

らしみ込ませることで、どの肉も同じやわらかさとおいしさになります。調味液の牛脂は、その日に使う分だけ解凍し、炊き込んで使っています。



新鮮な国産の牛脂で日本人好みの風味と旨味の調味液を作り、牛肉にまんべんなく筋切りしながら

どうしてやわらかいの？



の風味が損なわれてしまいます。焼くときは、鉄板の温度が一気に下がらないように、たくさん並べて焼くのではなく、高温で表面を焼くと肉汁が逃げ出しにくいです。

「焼く時に、水分が出るのが気になります」



ています。毎日、全部の肉からドリップ(余分な赤い汁)を回収し、細菌検査などを行っています。



牛やわらかハラミカット(徳用)
420g+80g
8月2回 598円

※適度な厚みと牛脂のコクで煮込みにも向いています。8面のPa・ぱっとクッキングにもレシピを掲載しています。

~ 2012年 岩手 被災地職員ボランティア活動 ~

〈2012年度第1陣〉6月18日~22日 パルコープ職員5名
山本さん(共同購入本部)、山下さん(渉外チーム)、富本さん(店舗本部)、白石さん(共同購入本部)、橋本さん



橋本さん
(商品部)

「大阪ではたこ焼き器は各家庭にあるんですけど、言うところ、え〜そうなん？初めて作るけどまた家でやってみるわ」と、皆さん興味津々でした。仮設住宅は交通の不便なところがあり、医者にかかるのにもタクシーや、週に1度のバスで、ということをお聞きしました。暮らしのメドが立たない方が多く、引きこもっておられる方もいるとのこと。震災復興にはまだまだと感じました。



「生協の粉もんパティール」を開催しました。仮設住宅の入口にテントを張り、「たこ焼き」「お好み焼き」「焼きそば」の屋台を出し、仮設住宅の皆さんに食べていただきました。

津波にさらわれて何もなくなった陸前高田市内を高台から臨みました



2012年度もパルコープ・よどがわ市民生協・ならコープの職員が、年7回の予定で遠野まごころネットとともに、岩手の被災地ボランティアに参加して、被災地の様子や活動をお伝えします。第1陣では、「粉もんパティール」や要支援の方への物資支援を行いました。

福島県の被ばく量検査機器購入募金と署名活動にご協力ください

福島県内の生協で、放射能検査機器と内部被ばく検査のための機器購入のため、支援募金を受け付けています。また、あんしん「福島」を取り戻すための署名にご協力をお願いいたします。

【募金方法】

- 7月2回~8月5回OCR注文書 6ケタ注文番号「001417」 ※「1」と記入すると100円の募金になります。
- 店舗・組合員会館は、募金箱を設置します(8月31日まで)
- 郵便振替 (口座番号)00900-2-14876 (加入者名)生活協同組合おおさかパルコープ ※通信欄に「福島県の被ばく量検査機器購入募金」とご記入ください。手数料は各自でご負担ください。

【署名方法】

下記ホームページよりダウンロードしてご使用ください。
http://www.palcoop.or.jp/pal_news/information/fukushima.html

引き続き「遠野まごころネット募金」にご協力をお願いします

- OCR注文書カンパ欄「1416番」に個数(100円単位)をご記入ください。
- 店舗・組合員会館には募金箱を設置しています。
- パルコープでは累計2,122万3,599円をお預かりしています。(2012年6月20日現在)

遠野通信 NO.17 被災者に寄り添い、絆をつなげる支援活動を

被災地の復耕畑では夏野菜の収穫も始まり、再び自然の恵みを感じる7月です。

この間、私たち生協組合員をはじめ、大学生や流通業・保険業の社員など、被災地に繰り返し訪れる「団体」が増えています。支援活動は、街の復興につながる「ものづくり」やイベントを手伝うだけでなく、参加者が「語り部」活動から多くのことを教えられています。

陸前高田の「語り部さん」は、大津波から自らも辛うじて逃れ、直後に入った避難所で世話役を務め、今は仮設住宅の区長をされているKさん(まごころネットスタッフ)が担っています。参加者と一緒に被災地に立ち「自然の脅威」「被災直後から今の暮らし」「今回の大津波から伝えられること、全国各地に持ち帰って欲しいこと」を繰り返し、語ります。

まもなく初めての岩手県内陸部の中学生への「語り部」も行うKさん。「どこまで話せば良いだろうか」と、先生・保護者と意見を交わしながら「語り部」活動は、まだまだ続きます。

(NPO遠野まごころネットに常駐するパルコープボランティア事務局・林さんより)

パルコープホームページにボランティア活動報告サイトをオープンしました。
http://www.yodogawa.coop/info/info/201206/20123.html